

2011年度 事業報告

(2011年4月1日～2012年3月31日)

2011年度 活動テーマ

日本ヒーブ協議会の原点再考
—生活者・行政・企業のさらなる「連携と協働」を目指して—

2011年度は、活動テーマを標記とし、下記の内容を中心に活動を実施することができた。

1. 企画グループでは、2つのプロジェクトを立ち上げ活動を推進した。①2011年12月の内閣府男女共同参画推進連携会議「国・地方連携会議ネットワークを活用とした男女共同参画推進事業」にて「キャリアアップセミナー」を実施、多方面から評価を得る。②2011年3月分科会活動報告書等を再編集、「電話・Eメールお客様対応マニュアル」を作成、情報発信を行った。
その他、東日本大震災に際し義援金を募り日本赤十字社を通じ支援を実施。
2. 研究会推進活動グループでは、研究会推進活動グループでは、会員の能力向上へ向けて各分野（行政・消費者団体・企業等）から講師を招き講演会を実施する等、月例研究会を柱とした活動に取り組んだ。また、月例会では、内閣府との共催「キャリアアップセミナー」を意識し、会員のキャリアアップに関するテーマも取り入れた。また、分科会活動では、新たに安全と安心に関するテーマを加え5つの分科会とし、会員が自主的に課題・研究に取り組める環境を整えヒーブ視点を磨くとともに、会員同士の情報交換の場を提供した。
3. 組織の活性化を図るグループでは、会員自らが積極的に活動できるよう支援することを目的に、会員名簿（簡易版）の共有、定款施行規則の全面見直し、文書保存規程の制定を実施。また、会員情報の定期調査において運営グループの希望を聞き、希望に応じた活動ができるようシステム変更を行った。
4. 広報グループでは、内閣府との共催セミナー実施に伴い「レポート・ヒーブ」の特集号を作成したほか内閣府の情報誌に当会の活動を紹介するなど、積極的な情報発信を実施。
5. 調査グループでは、第9回「働く女性と暮らしの調査」の実査に向け、目的・対象・内容項目の具体的内容の検討を行い、来年度に向けての準備を固めることができた。
6. 関西支部では今期、支部会員全員で月例会を担当し企画立案から報告書作成までを行う運営を実施。また、消費者関連団体との連携を図り、昨年に引き続き、消費者情報誌へ「情報カード活動計画書」の内容の掲載を行った。さらに、日本消費者教育学会全国大会において資料展示を行い情報発信ができた。
7. 九州支部では、「激変する社会の中で、対話を生み出すヒーブを目指して」をテーマに活動。「ワールドカフェ」の手法を学び新たな対話の場づくりを体験し、企業が生活者と地域とのいい対話を得られるための場づくりに活用ができるマニュアルを作成。
8. 会員企業および新規企業を積極的に訪問し、当会の現状と活動指針等を説明。継続および新入会のお願いにあたった。結果、予定していた会員を上回ったことにより収入増につながった。
9. 2010・2011年度の任期中に、35周年に向けての準備金を2年間連続で計上することができた。
これは、特別会員の皆様からのご寄付をはじめ、会員自らの活動によるものである。

このように、積極的な活動を推進してきたが、依然として景気低迷に続き、当会および会員を取り巻く環境は決して平穏ではない。この現実を真摯に受け止め、生活者と企業の信頼関係構築のために今後も生活者・企業・社会に貢献できるよう来年度に引き継ぐこととしたい。

2011年度 代表理事 高野 逸子

I. 2011年度事業実績

【東京本部・グループ活動】

1. 企画グループ

<活動実績>

(1) 代表理事の諮問機関として代表理事を補佐し、全体の運営が円滑に行われるよう努め、行政・他団体・有識者等と積極的な情報交換を行い、当会の活動を社会にアピールした。

(2) 特別会員・歴代会長等とヒーブ会員との交流

特別会員・歴代会長等とヒーブ会員との交流の場をつくり、情報交換ならびに日本ヒーブ協議会・ヒーブの今後のあり方や取り組みについてディスカッションした。

今後もこのような機会を設け、コミュニケーションを図りたい。

2012年2月22日 41名参加（特別会員・歴代会長8名）

「原点再考 これからのヒーブを大いに語る」

(3) 賛助会員企業および新規企業を訪問

当会の活動等について説明し、会員継続および新規加入などの働きかけを積極的に行う。

本部・支部	訪問企業	実施日	担当者
東京本部	6社	1月26日～3月29日	代表理事 高野 逸子
九州支部	3社	1月～9月	支部長 宮崎 和恵 花田 泉 岩井 美樹

(4) 理事会・企画委員会の実施

開催月日	理事会	企画委員会
4月21日	第1回 理事会	
5月11日	第2回 理事会	第1回 企画委員会
6月8日	第3回 理事会	第2回 企画委員会
7月6日	第4回 理事会	第3回 企画委員会
8月3日	第5回 理事会	第4回 企画委員会
9月7日	第6回 理事会	第5回 企画委員会（関西・九州合同）
10月12日	第7回 理事会	第6回 企画委員会
11月9日	第8回 理事会	第7回 企画委員会
11月22日	臨時理事会	臨時企画委員会
12月14日	第9回 理事会	第8回 企画委員会
1月6日	第10回 理事会	第9回 企画委員会
2月8日	第11回 理事会	第10回 企画委員会
3月2日	第12回 理事会	第11回 企画委員会（関西・九州合同）

(5) 行政・関連団体の主催する懇談会・研究会・記念式典等への出席<東京本部>

日時	名称	主催	参加者
4月20日	ACAP 総会・懇親会	(社)消費者関連専門家会議	代表理事 高野 逸子
5月17日	男女共同参画推進連携会議 国連婦人の地位委員会等について聞く会	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子
5月30日	平成23年度消費者支援功労者表彰 およびシンポジウム	消費者庁	代表理事 高野 逸子

6月10日	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 公益認定祝賀会	NACS	代表理事 高野 逸子
6月13日	男女共同参画推進連携会議 第2回ポジティブ・アクション小委員会	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子
6月17日	男女共同参画推進連携会議 女性差別撤廃委員会最終見解フォローアップ等について聞く会	男女共同参画推進連携会議 企画委員会	代表理事 高野 逸子
8月5日	男女共同参画推進連携会議	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子
9月15日	男女共同参画推進連携会議 第3回ポジティブ・アクション小委員会	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子
10月17日	日本消費経済新聞 「創刊45周年記念講演会」	日本消費経済新聞社	代表理事 高野 逸子
12月5日	国・地方連携会議ネットワークを活用 した男女共同参画推進事業	内閣府・男女共同参画推進 連携会議・日本ヒーブ協議会	日本ヒーブ協議会 会員 企業人事・能力開発担当者他
1月11日	ACAP 賀詞交換会	(社)消費者関連専門家会議	代表理事 高野 逸子
1月30日	男女共同参画推進連携会議 第4回ポジティブ・アクション小委員会	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子
3月3日	日本消費者協会・消費生活コンサルタント 50周年記念行事	(財)日本消費者協会	代表理事 高野 逸子
3月19日	全国消費者フォーラム	国民生活センター	代表理事 高野 逸子 正会員 青山 あいり 〃 黒岩 真澄
3月19日	男女共同参画推進連携会議	内閣府男女共同参画局	代表理事 高野 逸子

(6) 国民生活センター主催 全国消費者フォーラムでの発表

毎年開催されている全国消費者フォーラムに今年は日本ヒーブ協議会もエントリーし、第一分科会「消費者支援の多角的な取り組み」の中での発表が決定。「生活者と企業のパイプ役」からの情報発信の取り組み」と題し、電話・Eメールお客様対応マニュアルや情報カード報告書などの出版物を中心に、日本ヒーブ協議会の情報発信の取り組みについて発表した。

(7) 消費者庁による平成24年度「消費者支援功労者表彰等候補者の推薦について」

本年も、消費者支援に貢献している会員を推薦し、推薦状およびその他資料送付の事務手続を2011年12月に行った。

(8) 東日本大震災に伴う義援金および公益財団への寄付金について

昨年、3月11日発生した東日本大震災に伴い、募金活動を実施。

期間：2011年4月～2011年12月

① 月例研究会・セミナーを通じての募金 33,937円

② ヒーブバックの売上金の10%（ヒーブロイヤリティ3%+セールスレップ7%）44ヶ 24,090円

①+② 合計金額 58,027円を日本赤十字社に寄付

③ 1月度月例研究会にて、ご講演いただいたヤマト運輸（株）CSR推進部広報課課長高松徹氏が講演料をご辞退されたことを受け、当会より公益財団法人ヤマト福祉財団へ30,000円寄付

①+②+③ 寄付金合計額 88,027円

(9) 特別会員からのご寄付

昨年に引き続き、特別会員の皆様から 190,000 円のご寄付を頂戴した。周年行事準備金として資産計上。

(10) 「電話・Eメールお客様対応マニュアル」の発行

1993 年に関西支部活動“お客様コミュニケーション技術研究会”において「クレームを中心とした電話対応実務マニュアル」を発行。その後改訂を重ね、2009-2010 年度「お客様対応を考える」分科会活動において 2011 年 3 月には「電話対応実務マニュアル・Eメール対応実務マニュアル」を分科会活動報告書として作成。企業のお客様対応のノウハウが詰まったこれまでのマニュアルや活動報告書を参考に、今期プロジェクトを発足させ「電話・Eメールお客様対応マニュアル」を発行した。

《プロジェクトメンバー》

細島 芳	第一生命保険(株)	青山 あいり	日本製粉(株)
長澤 友美	はごろもフーズ(株)	黒岩 真澄	日本生命保険(相)
渡邊 華与子	雪印メグミルク(株)	松岡 直美	雪印メグミルク(株)
山田 聖子	日清製粉(株)		
川口 徳子	日本ハム(株)	野田 香	ロート製薬(株)
山下 みどり	日本ハム(株)	山本 有美子	アース製薬(株)

(11) 内閣府・男女共同参画推進連携会議・日本ヒーブ協議会による「キャリアアップセミナー」

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業に参画。男女共同参画推進会議構成団体として、2011 年 3 月「ポジティブ・アクション」小委員会に加わり、国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業に参画。12 月 5 日には、主催 内閣府・男女共同参画推進連携会議・日本ヒーブ協議会にて「キャリアアップセミナー」を実施。

参加者：172 名（会員・会員上司・会員会社人事・能力開発担当者）

会 場：アイビーホール

第1部 基調講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・13：30～15：00

「企業で働く女性達へ」ー組織の成長につながる仕事をするためにー

シャープ株式会社 執行役員 岡田 圭子 氏

第2部 パネルディスカッション・・・・・・・・・・15：15～17：00

「女性が生き活きと仕事をするために」ー女性の活躍の場をつくる取組み事例から学ぶー

【パネリスト】 安藤 哲也 氏 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事)

平井 邦治 氏 (日本ハム株式会社 人事部長)

小林 洋子 氏 (内閣府男女共同参画局推進課長)

杉本 美穂 (ライオン株式会社 生活行動研究所 正会員)

【コーディネーター】山本 加津子 (NPO 法人 J-W i n 広報担当部長・特別会員)

第3部 情報交換会・・・・・・・・・・・・・・・・・・17：15～18：45 【会費 3,000 円】

この共催セミナーが実施できたことは、当会の認知度を高めるきっかけになったと思う。また、活動の方針でもある会員の資質・能力の向上に向けてさらなる第一歩を踏み出すことができた。会員他、外部からも高い評価をいただいた。

※ 報告書を 350 部作成 会員・会員企業・セミナー関係者に配布

《プロジェクトメンバー》

高野 逸子	アフラック (アメリカファミリー生命保険会社)	仁見 貞子	日本製粉 (株)
藤原 正江	(株) アンデルセンサービス	常見 真紀子	日本生命保険 (相)
松居 幸代	サントリーホールディングス (株)	川口 徳子	日本ハム (株)
吉川 由香	サントリービジネスエキスパート (株)	川村 彩	(株) 明治
奈良岡 舞	敷島製パン (株)	市川 智子	ライオン (株)
野口 美樹	(株) ダスキン	林 真美	日本ヒーブ協議会九州支部

《事務局》

窪田 久美子・辻村 智恵子

2. 研究会推進グループ

会員の能力・資質の向上およびネットワーク醸成に向けて、以下の取り組みを通じ会員の積極的な参加意識を向上させるとともに、会員相互のコミュニケーション強化・支援を図った。

<活動目的>

(1) 会員の能力向上

- ・会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会・分科会等を企画・運営する。

(2) 会員相互のコミュニケーション強化・支援

- ・ヒーブのネットワークの強化を図り、ヒーブの企業における存在価値、社会の認知度を高める。

(3) 協議会活動への参加促進

- ・分科会・自主研究活動を推進し、会員一人ひとりが、協議会の活動に積極的に参加できる環境づくりを目指す。

<活動実績>

(1) 2011年(第9回)総会の運営

【総会議事】

第1号議案	2010年度事業報告	
第2号議案	2010年度決算報告	監事による会計および業務報告
第3号議案	2011年度役員選任	
第4号議案	2011年度事業計画	
第5号議案	2011年度予算計画	

役割	担当	
司会	総合司会	徳永 由美/株資生堂
	情報交換会司会	古舘 知寿子/味の素株
議長団	議長	林 絵里/株カタログハウス
	副議長	鈴置 由紀恵/日新製糖株
	書記	市川 智子/ライオン株

報告者	2010年度事業報告	2010年度代表理事：高野 逸子/ アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
	2010年度決算報告	2010年度会計：後藤 寛子／森永乳業(株)
	監事による会計及び 業務報告	監事：大場 眞知子／(株)ゴールドウイン 監事：林 栄吏子／昭和産業(株)
	2011年度役員選任	選挙管理委員長：鍵谷 泉／ユニ・チャーム(株)
	2011年度事業計画	2011年度代表理事：高野 逸子/ アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
	2011年度予算計画	2011年度会計：鈴木 千秋/ (公財)生命保険文化センター

(2) 月例研究会の運営

年間テーマ「日本ヒープ協議会の原点再考—生活者・行政・企業のさらなる『連携と協働』を目指して—」に基づき、各分野から講師を招いて内容の充実を図った。特に、35周年を見据えての以下の2点に重点を置き、月例研究会を企画した。

- ①「生活者と企業のパイプ役」として、行政・消費者団体および消費者関連団体との連携・協働を深め、社会への情報発信を行う。

⇒独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE〕による講演（6月）

全国消費生活相談員協会による講演（3月）

- ②賛助会員による情報提供の機会を積極的につくり、企業の活動を紹介する。

⇒賛助会員企業の見学会（10月）、賛助会員の講演（7月）、

※他に、総会情報交換会で賛助会員企業の資料展示（4月）

(3) 分科会の運営

昨年度から継続している4つのテーマに新テーマを追加し、中長期的な視点で活動を行った。毎月の分科会活動では、互いに情報提供、議論を積極的に行い、現在の生活者に必要な課題・問題点を共有化し、各グループ別報告会を実施した。

【分科会テーマ】

- ①啓発活動のあり方を考える ②生活者と企業のギャップを探る
③生活者の安心・安全を考える ④お客様対応を考える
⑤働く女性と生活に関する調査・提言

(4) 月例研究会・公開講座でのアンケートの実施

毎回アンケート調査を実施し、集計・分析した結果を、理事会で報告した。

(5) 公開講座・見学会の開催

協議会の認知度を高めるため、一般・マスコミの方も参加できる公開講座を4月に開催した。

また、6月、7月、9月、10月、11月、1月、3月には会員の上司・同僚も参加できるセミ公開講座として開催した。また、10月は企業見学会（2社）を実施した。

(6) キャリアアップセミナーの実施

5月は、会員によるパネルディスカッション「私の仕事とキャリア」を開催した。9月には、仕事を通じての自己実現を目指し、「あなたらしく自己実現できるキャリア開発の方法」というテーマでキャリアカウンセラーによる講演会を行った。

※ 月例研究会・分科会活動等の詳細については以下を参照

※

【月例研究会・公開講座】＜東京本部＞

	実施日・会場	会の名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	4月21日(木) アルカディア市ヶ谷	2011年 総会 公開講演会 情報交換会	◆「日本経済の活路～消費者起点が改革のカギ～」 大田 弘子氏/政策研究大学院大学 教授 ◆情報交換会	総会 51名 講演会 114名 交流会 98名
2	5月20日(金) 女性就業支援センター	ガイダンス ミーティング 月例研究会 キャリアアップ セミナー 分科会	◆ガイダンスミーティング ◆私の仕事とキャリア ＜パネリスト＞ 野田 郁子 /昭和産業(株)食品開発センター 総務・企画室課長 民長 奈緒子/三菱自動車工業(株)お客様関連部 河村 晴美 / (株)明治お客様相談部 ＜コーディネーター＞ 三田 まり子/(株)販売促進研究所 執行役員 ◆分科会 活動方針説明と参加グループ検討	ガイダンス 27名 講演会 43名 分科会 45名
3	6月17日(金) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 分科会 情報交換会	◆「製品の安心・安全について」 川野 和弘氏/(独)製品評価技術基盤機構 [NITE] 技術業務課長 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動 ◆情報交換会	講演会 41名 分科会 35名 交流会 19名
4	7月22日(金) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 分科会	◆「小林製薬お客様相談室のCS向上への取組み」 村上 直紀氏/小林製薬(株) 品質保証室お客様相談室 室長 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動	講演会 55名 分科会 37名
5	8月24日(水) 女性就業支援センター	月例研究会 分科会	◆「会員交流会」 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動	交流会 34名 分科会 38名
6	9月27日(水) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 キャリアアップ セミナー 分科会	◆キャリアアップセミナー「あなたらしく自己実現できるキャリア開発の方法」 門田 由貴子氏/キャリアカウンセラー ◆分科会5つのテーマ別グループ活動	講演会 39名 分科会 32名
7	10月17日(月)	月例研究会 セミ公開講座 企業見学会	◆企業見学会 ・ジュピターショップチャンネル ・アフラックペアレンツハウス亀戸	見学会 46名
8	11月18日(金) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 分科会	◆「『Mart』からみた消費者の変化、商品作り」 大給 近憲氏/(株)光文社「Mart」編集長 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動	講演会 48名 分科会 36名
9	1月20日(金) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 分科会	◆「ヤマト運輸の震災復興とCSR」 高松 徹氏/ヤマト運輸(株) CSR推進部広報課 課長 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動	講演会 43名 分科会 30名
10	2月22日(水) 女性就業支援センター	月例研究会 分科会	◆これからのヒーブを大いに語る ゲスト 松尾 正弘氏/九州大学特別講師 落合 良 氏/特別会員 ◆分科会5つのテーマ別グループ活動 ◆情報交換会	講演会 41名 分科会 40名 情報交換会 35名
11	3月21日(水) 女性就業支援センター	月例研究会 セミ公開講座 分科会	◆「消費者行政の最近の動向と企業・ヒーブに求められる役割」 丹野 美絵子氏/全国消費生活相談員協会 理事長 ◆分科会活動報告会	講演会 45名 分科会 42名

3. 組織の活性化を図るグループ

組織の活性化を図るグループのミッションの1つとして「会員自らが積極的に活動できるように支援する」があり、今期は以下の項目について重点的に取り組んだ。①会員に運営グループ・プロジェクト活動に参画してもらうこと、②運営業務（理事）の引継ぎを簡素化するために、運営ルールを整理して目の届くところに置くこと（基盤整備）、③会員交流のツールとして懸案事項となっていた会員名簿の再開の検討（名簿は2004年度まで印刷物にて配付していた）。

<活動実績>

(1) 会員の管理と拡大

- ① 入会・退会・会員変更・休会申込の状況を月次で理事会に報告し、共有を図った。
- ② 昨年同様、エクセルで作成した調査票を会員に配信する形で会員情報の更新を行った。業種、職種の分類で整合性をとるため、一部の項目で見直しを行った。運営グループ（プロジェクト含む）の参加希望とアンケートを同じ調査票に加え、一緒に調査した。
- ③ 会員名簿（簡易版）の正会員間での共有…会員アンケートの結果から、名簿に関しては、肯定派が約6割、否定派が約1割、どちらでもよいが約3割であった。名簿の必要性については、組織グループの打合せおよび理事会等で個別にヒアリングを行ったところ、以前名簿を活用していたので、名簿が無くなって連絡がとりにくく非常に不便（開示賛成）という人と、名簿の取り扱いは会員により温度差があるため不安（開示反対）という両極端のご意見をいただいた。今までも名簿のニーズはあったが、運営体制がボトルネックとなっていた。他団体の例からWEBサイトのシステム改善の提案もあったが、当会の規模では経済的に無理であり、今できるセキュリティ対策にて前に進めることにした。具体的には、開示項目を絞る、ファイルにパスワードをかける（パスワードは毎回変更）、掲載を希望しない項目があれば事前に申し出てもらい、名簿へのアクセスは申請制とし「名簿取り扱いルール」に承諾した正会員のみパスワードを連絡する、名簿ごとのパスワード配付管理を事務局で行う、とした。

(2) 諸規則の見直し

- ① 定款施行規則を全面的に見直した。会費納入方法の一元化、返金不可の追記、特別会員の認定方法、休会・退会時の会費の扱い、組織図などを現在の運営に合わせた形にし、文章も規則の体裁に直した。
- ② 内規等の周知徹底を図るため「メンバーズオンリーコーナー」に掲載した。現在の運営とそぐわない点があれば、随時見直してもらう（廃止も含む）。
- ③ 「文書保存規程」を調査グループの協力のもと制定した。

(3) グループ活動の推進

分科会グループに運営グループを割り当てる方式から、会員が希望するグループ・プロジェクトに参画できるように変更した。会員情報の定期調査時に希望を聞き、これに基づきグループピングした。理事には、メンバーの協力を得て活動を進める体制に変えていくよう働きかけ、グループの仕事がメンバーに継承される仕組みづくりに取り組んだ。

(4) 情報交換会の開催

情報交換会は3回計画していたが、6月度の1回のみ開催した。3月度は組織グループでも分科会お疲れ様会を予定していたが、研究会推進グループの企画でお茶菓子にて実施した。

(5) 新会員へのガイダンス

ガイダンスミーティングを5月に開催し、新年度最初の月例研究会から協議会活動に参加しやすいようにした。協議会の概要、グループ活動、分科会などの活動内容を説明し、積極的な参加を呼びかけた。研究会推進グループと協同し、月例研究会の第一部として開催することで、継続会員についても参加可能とし、ヒーブを振り返る機会とした。

(6) 理事・監事選挙

- ① 2012 年度役員選出のための選挙管理委員会を発足させ、選挙管理委員会活動が円滑に推進されるように支援した（8～3 月）。今期は監事が 2 名とも任期中のため、理事だけの選挙となった。

【選挙管理委員会】

	支部	氏名	会社名
委員長	東京	鍵谷 泉	ユニ・チャーム（株）
委員	東京	志保沢 久子	味の素ゼネラルフーズ（株）
委員	東京	間瀬 みゆき	大正製薬（株）
委員	関西	亀沖 佐織	江崎グリコ（株）
委員	九州	石井 博美	TOTO（株）

- ② 選挙の結果、理事候補者 14 名が信任されたが、その後、理事候補者 1 名は異動に伴い休会が決定、もう 1 名は会員交代となり、合計 2 名の辞退者が出たので、4 月上旬に 1 名の補欠選挙を実施。総会前に開票予定。

(7) 理事会だよりの発行

「理事会だより」を毎月作成し、ホームページに掲載した。会員にはメールで告知して、協議会運営の“見える化”を継続した。

(8) その他

一般社団法人は、直近 5 年間の決算公告を HP に掲載するよう法律で決められており、昨年度分を掲載した。掲載は数字を丸めた簡易型書式でよいとのことで、今後も同様に対応する。

4. 広報グループ

協議会の認知度向上のために会の内外へ情報発信を行うという役割のもと、次の活動を行った。

<活動実績>

(1) 「レポートヒーブ」「What is ヒーブ？」の発行

会員向け機関紙「レポートヒーブ」を（12 月・4 月）発行した。

月例会、分科会活動報告を始め、女性活用を推進する企業、活躍するヒーブ会員、関連団体へのインタビューなどを取り入れることで、活動報告にとどまらない内容とし、広報誌としての充実を図った。

また、「What is ヒーブ？」を幅広く配布し、日本ヒーブ協議会の活動アピールを行った。

(2) ホームページの運営及びリニューアル

日本ヒーブ協議会の活動をタイムリーに発信。運用効率化を目指し、HP 改訂の進捗管理表を作成し、改訂を迅速に行った。

理事会の運営の効率化を図るべく、理事会専用のコーナーを設置し、運用を開始した。

(3) 生活講習・ヒーブ仕事講座の実施、その他講演会への講師派遣

消費者センターで生活講習を実施し、生活に役立つ情報を提供した。また、ヒーブ仕事講座としては、専修大学 HEIB 講座に講師を派遣し、学生の今後のキャリアに役立つ情報を提供した。また、業界団体や行政からの要請を受けヒーブ会員を講師として派遣しヒーブ会員が持つ「相談業務のノウハウ」や「わかりやすい製品表示のあり方」などを講演し、役立つ情報を提供した。

【生活講習】

開催場所	テーマ	実施日	ヒーブ担当者
船橋市役所	お家の整理・収納術「掃除・収納上手は節約上手」	2011年12月8日	㈱女性の生活研究室 みかなぎ りか氏

【ヒーブ仕事講座】

依頼元	テーマ	実施日	ヒーブ担当者
専修大学	HEIB仕事講座 「日本ハムグループの取り組み ～品質No.1経営を目指して～」	2011年10月14日	日本ハム㈱ 水島 昭子

【その他講演会への講師派遣】

依頼元	テーマ	実施日	ヒーブ担当者
公益社団法人 日本包装技術協会	生活者包装研究会 「日本ヒーブ協議会の活動と提言 ～生活者と企業のギャップを探る～」	2011年5月27日	ライオン㈱ 杉本 美穂 第一生命保険㈱ 細島 芳
神戸市消費生活課	神戸コンシューマースクール 「お客様対応講座 ～対応のポイントと心構え～」	2011年10月15日	サントリービジネスエキスパート㈱ 吉川 由香

※出版物・印刷物

名 称	発行年月	部数	内 容
レポートヒーブ	67号 2011年12月 (特集号)	1200	内閣府男女共同参画推進連携会議共催の「キャリアアップセミナー」開催記念特集号として、女性活用推進企業のインタビューおよび生活者視点を仕事に活かすヒーブ会員紹介を特集した。
	68号 2012年4月	1100	企業・団体による、教育現場での消費者教育のあり方の特集として取り上げ、「消費者教育支援センター」へのインタビュー記事や消費者教育に携わるヒーブ会員の活動紹介を掲載した。
キャリアアップセミナー 報告書	2012年3月	350	2011年12月5日実施、内閣府・男女共同参画推進連携会議共催「キャリアアップセミナー」の報告書として発行。本セミナーを通じ、学んだことや今後のヒーブ活動にどのように活かすかなども合わせて掲載。
電話・Eメールお客様対応 マニュアル	2012年3月	350	企業のお客様対応のノウハウを活かしたマニュアルや活動報告書を基に再編集。基本的なスキルを中心として、言葉使いや電話対応のほか業界別の事例に加えEメール対応の基本的な考え方などを掲載。

※マスコミ等記事掲載

【トピック関連】

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
共同参画 第38号 9月号	内閣府	2011年 9月10日	「取組事例ファイル 団体編 日本ヒーブ協議会」

共同参画 第43号 2月号	内閣府	2012年 2月10日	「日本ヒーブ協議会とキャリアアップセミナーを共催」
------------------	-----	----------------	---------------------------

【所信表明関連】

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
日本消費経済新聞 2012年 新春特集号	日本消費経済新聞社	2012年 1月1日	「年頭所感」 日本ヒーブ協議会代表理事 高野 逸子 関西支部長 藤原 正江
消費と生活 (303号)	消費と生活社	2012年 1-2月号	「生活者と企業のパイプ役として」 日本ヒーブ協議会代表理事 高野 逸子
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2012年 1月号	「生活者・行政・企業との連携・協働を重視」 日本ヒーブ協議会代表理事 高野 逸子

【公開講座関連】

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費生活新報	消費生活新報社	2011年 5月1日号	「大田弘子氏による公開講演会を開催」 2011年度総会・記念講演会
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2011年 6月	「雑誌の視点で見た消費者心理」 2011年度関西支部記念講演会

【自主研究会連載】

誌名・タイトル	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費者情報	(財)関西消費者協会	2011年10月号	「生活力アップ豆知識 vol.3」 突沸という現象をご存知ですか？
	(財)関西消費者協会	2012年4月号	「生活力アップ豆知識 vol.4」 洗剤の使い分けをご存知ですか？

5. 調査グループ

第9回「働く女性と暮らしの調査」の次年度実査に向けて主に次の活動を行った。

<活動実績>

(1) 活動形態

- ・調査の運営グループメンバーと調査の分科会メンバーとがほぼ同じため、分科会の日程に合わせて活動を行った。その際、調査経験者・マーケティング経験者などに参加いただいた。

(2) 前回調査までの振り返り

- ・過去8回分の調査票を共有し、分科会で検討しつつ全調査分の調査項目のマトリクス化を行った。
- ・調査目的が不明確、時間とお金をかけた調査結果が活用されていないなど、調査の課題抽出を行った。

(3) 調査企画書の作成

- ・調査企画書を作成するにあたり、調査の背景、調査目的、調査対象、調査手段について分科会メンバーでフリーディスカッションを実施した。
- ・調査企画書(案)をもとに調査の構造的見直し、調査の背景と目的などについて理事と分科会メンバーとで検討会を行った。[1/20(金)実施]
- ・2月の分科会において、先輩ヒーブである落合良氏、藤田せつ氏の両名から調査企画書(案)に

ついてご意見を伺い今後の方向性を確認した。〔2/22(水)実施〕

(4) 文書保存規程の作成

- ・調査報告書をはじめ、日本ヒーブ協議会に関わる文書について組織の活性化を図るグループとともに「文書保存規程」を新設した。

【支部活動】

6. 関西支部

月例研究会を通じて、会員の能力向上を目指し、「生活者と企業のパイプ役」であるヒーブがその役割を果たし、生活者に向けた適切な情報発信が行えるようにスキルアップにつながる活動を行った。

今年度は、「会員全員による月例研究会の運営」を目指し、月例研究会の企画立案から報告書作成まで全員で実施した。

他団体との連携を図り、消費者情報誌へ「情報カード」の掲載、日本消費者教育学会全国大会において資料展示を行うことにより、情報発信ができた。

【関西支部運営委員】

支部長	藤原 正江／(株)アンデルセンサービス
委員	山本 千草／パナソニック(株)
	龍 麻衣／(株)みつかん
	小又 美智／(株)みつかん (2012年2月 龍会員より交替)

<活動実績>

(1) 月例研究会活動

①月例研究会

- ・会員一人ひとりがヒーブに求められている資質である現状把握力・問題発見力・判断力問題解決力・プレゼンテーション力など様々な能力の向上を目指し、各自の業務に具体的にフィードバックできるようテーマ設定を行い、研究会活動を行った。
- ・会員全員で月例研究会を運営することにより、会員間のコミュニケーションをより深め、相互に影響しあえる関係を構築することができた。

②テーマディスカッション

- ・会員が自ら考え行動する場として例年テーマディスカッションを実施。
- ・今年度は、講師の方、会員企業の方にも参加いただき活発な意見交換が行われた。
- ・情報交換の機会を増やし、会員相互のコミュニケーション活性化を通じてヒーブならではの「ネットワーク力」を強化することができた。

③「運営スタッフ」制度

- ・今年度は「会員全員による月例研究会の運営」を目指し、月ごとに担当を決め、会員全員が「運営スタッフ」に登録。企画立案から報告書作成まで実施し、運営業務への理解を深めるとともに、会員としての帰属意識を高めることができた。

④月例研究会の記録

- ・月例研究会の内容と研究会に関するアンケート結果は、研究会レポート等でまとめ会員に報告し、会員が研究会活動で得た情報の定着を図った。

【月例研究会・公開講座】＜関西支部＞

	実施日・会場	会の名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	5月27日(金) 中之島公会堂	支部大会 ガイダンスミーティング 記念講演会 (公開講座)	◆「2011年Mart的マーケットの読み方」 大給 近憲氏/(株)光文社「Mart」 編集長 ◆懇親会 ◆ガイダンスミーティング	大会 21名 講演会 72名 懇親会 40名
2	6月22日(水) (株)明治 関西工場	2011年度 第1回 月例研究会 企業見学会	◆「ヨーグルトの伝統と機能性食品としての可能性」 有江 泰彦氏/(株)明治 研究本部 食品開発研究所 プロバイオ学術支援 グループ グループ長 ◆明治ヨーグルト館見学	講演会 20名 見学会 19名
3	7月29日(水) 第一生命保険(株)	2011年度 第2回 月例研究会 スキルアップ 講座①	◆「お客様の声を活かした活動」 村瀬 敏彦氏/第一生命保険(株) 契約サービス部長 ◆第1回テーマディスカッション 「お客様の声を活かした活動について」	講演会 19名 テーマ 14名
4	10月7日(金) 日本ハム(株) 大阪本社	2011年度 第3回 月例研究会 スキルアップ 講座②	◆「キッコーマンの食育活動の取り組みについて」 大坂 葉子/キッコーマンビジネスサービス(株) 広報部長 ◆第2回テーマディスカッション 「健康管理について」	講演会 23名 テーマ 17名
5	11月4日(金) 大阪産業創造館 5階	2011年度 ヒープセミナー	◆「ほんまもんのサービスはこれや!利益は後からついてくる」 平田 進也氏/(株)日本旅行 西日本営業本部 営業推進事業部 担当部長 ◆第3回テーマディスカッション 「サービスについて」 ◆ふれあいディナー(懇親会)	講演会 60名 テーマ 36名 懇親会 7名
6	2月1日(水) (株)内田洋行 大阪ユビキタス 協創広場 CANVAS	2011年度 第4回 月例研究会 企業見学会	◆「ユビキタス社会を実現する最新技術について」 高崎 恵二氏/(株)内田洋行 オフィス環境事業部 西日本営業部長 吉岡 結花氏/(株)内田洋行 オフィス環境事業部 西日本営業部営業3課 ◆大阪ユビキタス協創広場 CANVAS 見学 ◆交流会	講演会 21名 見学会 21名 交流会 20名
7	2月28日(火) ドーンセンター	2011年度 第5回 月例研究会 スキルアップ 講座③	◆「一人ひとりのハッピーキャリア働いて生きる、つながって生きる」 金谷 千慧子氏/ 特定非営利活動法人女性と仕事研究所代表理事 ◆第4回テーマディスカッション 「育児・介護と仕事の両立について」他	講演会 17名 テーマ 15名
8	3月22日(木) (株)ミツカン 大阪支社	2011年度 第6回 月例研究会	◆会員によるお仕事紹介 ・(株)アンデルセン・パン生活文化研究所 生活研究室 上田 稚子 ・(株)ダスキン 暮らし快適化生活研究所 野口 美樹 ◆ふれあいランチ ◆活動の振り返りと来期の活動について	講演会 13名 テーマ 8名 ランチ 10名

※ 上表の他、9月に合同月例研究会(関西)を予定していたが、12月の内閣府との男女共同参画事業

ヒーブキャリアアップセミナー（東京）を合同月例会としたため、関西では実施せず。

（2）自主研究会活動

・「お客様コミュニケーション技術研究会」は、今年度は計2回の研究会を開催し、次の活動を展開した。

①『消費者情報』への記事の掲載 “生活力アップ豆知識”

・昨年に引き続き、関西消費者協会発刊『消費者情報』に「情報カード活動報告書」の内容を掲載した。今後も継続して記事掲載を予定している。

[2011年10月号]生活力アップ豆知識 vol.3

「加熱調理後に突然、食品が噴き出すことがあります。」

「突沸」という現象をご存知ですか？思わぬ火傷をしないための注意点をお伝えします。

[2012年4月号]生活力アップ豆知識 vol.4

「洗剤によって、使い分けが必要なことをご存知ですか？」

住宅用洗剤・洗浄剤の安全で効果的な使用方法をお伝えします。

②「電話対応実務マニュアル Eメール対応実務マニュアル」の読み直しを行い、東京の企画グループに提案。

③会員間の情報交換

（3）広報活動

・他団体の交流（ACAP、NACS等）や消費者教育学会へ参加することにより、ヒーブ協議会の情報発信を行った。（4月・1月：ACAP、6月：消費者支援機構関西、7月・10月：関西4団体、9月：消費者教育学会、11月：日本消費経済新聞「創刊45周年記念講演会」）
また、今年度は、消費者教育学会全国大会（大阪）において、資料展示（情報カード）を行うことにより、ヒーブの活動について情報発信ができた。

（4）組織活動

①ガイダンスミーティング

・新入会員を対象として支部大会に合わせて「ガイダンスミーティング」を実施。
代表理事にも参加いただき、協議会に対する認識を深めてもらうとともに、「全会員による月例研究会の運営」について説明し、積極的な参加を促した。

②情報交換会実施

・今年度は「ふれあいディナー」を1回、「訪問企業の方との交流会」を1回、「ふれあいランチ」を1回実施し、会員間、訪問企業との交流を図ることができた。

③運営委員選挙

・関西支部2012年度運営委員を選出した。

(5) 行政・関連団体の主催する懇談会・研究会・記念式典等への参画 <関西支部>

名称	主催	日時	参加者
ACAP 西日本支部 大阪例会	(社)消費者関連専門家会議 西日本支部	4月26日	山本 千草
日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント協会 西日本支部 通常大会	日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント協会	6月4日	龍 麻衣
消費者支援機構関西 (KC's) 2011年度 通常総会 記念シンポジウム	消費者支援機構関西 (KC's)	6月25日	山本 千草
関西4団体合同会議	ACAP・NACS・全相協・ヒーブ	7月5日 10月14日	関西支部長 藤原 正江、 山本 千草
日本消費者教育学会実行委員会	消費者教育学会関西支部	9月23日	山本 千草
日本消費者教育学会 全国大会	消費者教育学会	10月22日 23日	山本 千草 川口 徳子
日本消費経済新聞 「創刊45周年記念講演会」	日本消費経済新聞社	11月1日	山本 千草
ACAP 西日本支部 大阪新春講演会&賀詞交歓会	(社)消費者関連専門家会議 西日本支部	1月13日	山本 千草

(6) 今後の課題

- ①関西支部は、運営委員を3名とし、「全会員による月例研究会の運営」を目指し、会員の満足向上に努めてきた。自ら企画することで、満足度、充実度、ヒーブ協議会への帰属意識は高まったが、一方、メンバーによっては準備等、負担が大きかった面もあった。今後は運営の負荷軽減の工夫を図りたい。
- ②関西支部の会員減少に対する対策として、今後は東京本部とも連携しつつ、現会員が会員継続できるようバックアップ体制を構築するとともに、関西の企業に対してヒーブの活動PRをより一層強化することが必要である。

7. 九州支部

「激変する社会の中で対話を生み出すヒーブを目指して～ヒーブが時代の鏡になる～」を活動テーマとして、“対話の場づくり”をいかに持つべきかを模索した。そこで、今、対話の手法として注目を集めている「ワールドカフェ」を学び、「ヒーブカフェ」と名付けて開催。それを基に企業が開くカフェのあり方を冊子にまとめることで、活動の集大成とした。

【九州支部運営委員】

支部長 宮崎 和恵 /おおいたインフォメーションハウス (株)
 副支部長 花田 泉 /クリエイティブオフィス ビーンズ
 副支部長 向笠 恭子 /九州電力 (株)

他6名

<活動目的>

- ①「激変する社会の中で対話を生み出すヒーブを目指して ～ヒーブが時代の鏡になる～」を活動テーマとした。時代の変化に伴い“生活者”のライフスタイルも価値観も多様に変化し続ける中、今の生活者の実像をより理解する、その原点は、“対話”だと考えた。企業と生活者との間にどういう形の対話の場を生み出すのか、またその方法は何かについて、年間を通じてスキルを磨き、ヒーブだからこそできる方法を模索。そこで、今期は、今、注目されている「ワールドカフェ」の手法を学び、「ヒーブカフェ」を開催。最終的に、企業にとって有効な対話の場づくりをするための「ヒーブカフェマニュアル」を制作した。
- ②会員減少の中、会員同士の交流を深め、それぞれの会員企業で実践する取り組みを知り、企業と生活者が今こそ気づき、求められるものは何かというヒーブ視点を磨きあえるような活動に務めた。
- ③ヒーブだからこそできる活動は何かを見直し、新規会員の入会、休会会員への再入会を促すよう努力をした。その結果、来期は2名の入会が見込まれることになった。

<活動実績>

(1) 月例研究会活動

会員全員で運営に携わることを基本とし、会員数の減少による少ない人数にもかかわらず、年間活動テーマのもと、7回の月例研究会を開催し、会員のスキルアップを図った。そのうちの1回は、「パワーミーティング」と題し、2日間にわたっての開催により月例研究会および今期の振り返りと来期の計画づくりを集中的に話し合うことができた。

①外部団体とのコラボによる公開講座

福岡市男女共同参画推進センター「アミカス」との共同企画による公開講座を実施。実験的な意味でのワールドカフェを行ったところ、気軽な話し合いの場が持てたことが好評を博し、今期活動の集大成として開く3月の「ヒーブカフェ」への理解と関心が高まった。

②公開講座による実践ヒーブカフェ

企業にとってのワールドカフェの開き方や質問内容、テーマの選び方についての研修も重ねて来た中で、会員以外の参加者を募っての「ヒーブカフェ」を開催。タイムリーなテーマを選んだこともあり、生活者の立場、企業の立場での対話の場が活発に行われた。広くヒーブの活動の周知にも役立った。

(2) 広報活動

- ・ヒーブの認知度を高めるため、公開講座の案内および活動内容等の情報発信を会員一人ひとりの持つ人的ネットワークをフル活用して参加等呼びかけた。
- ・マスコミへの連絡網を整理し、直接的に呼びかけを行い、数年ぶりにマスコミ懇談会を実施した。その結果、ヒーブカフェの新聞での告知や当日のTV取材に結びついた。

(3) 組織活動

- ・例年どおり、全会員サポート体制をとり月例研究会の運営効率化や参加率アップを図った。個人会員も活動に参加してもらうように積極的なアプローチを行った。
- ・今期限りの退会が3名となったが、個人会員から正会員への入会、休会中の会員の交代会員による復帰が決まった。

【月例研究会・公開講座】 <九州支部>

	実施日・会場	会の名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	6月3日(金) アクロス 円形ホール	支部総会 公開講座 懇親会	「いい会社とは、いい対話とは。コミュニケーション能力のある会社になるために」 ・スペシャルスピーカー 古野 庸一氏 (株) リクルートマネジメントソリューションズ ・スピーカー 扇 隆志氏 (株) ゼンリン 向井 和代氏 TOTO (株)	講演会 30名 懇親会 18名
2	7月26日(火) ピエトロビル	月例研究会	「“対話 “の場づくりをするための集客・広報の仕方を学ぶ」 河津 一郎氏 インサイドアウト (株)	月例会 10名 懇親会 9名
3	9月3日(土) アミカス	公開講座	福岡市男女共同参画推進センター「アミカス」との共同企画 「アミカス△共感ゼミ×ヒーブカフェ」 「あなたは読んでから使う?使ってから読む? ～女性視点でトリセツ(取り扱い説明書)を斬る!」 (ワールドカフェ形式によるヒーブカフェ)	講演会 17名
4	10月26日(水) 紺屋 2023	月例研究会	生活者の声を生かすカフェづくり 「ヒーブカフェの作り方を考える」 辻 桂子氏 NPO日本ファシリテーション協会会員	月例会 6名
5	11月22日(火) AIM (エイム)ビル	月例研究会	「対話の場づくりのためのカフェの作り方」 田坂 逸朗氏 ファシリテーター/マーケティングプロデューサー	月例会 8名
6	1月28日(土) 1月29日(日) BiViビル	月例研究会	ヒーブカフェのマニュアル作り、 今期の振り返りと来期の計画づくり 田坂 逸朗氏 ファシリテーター/マーケティングプロデューサー	28日 8名 29日 5名
7	2月22日(水) 舌心	マスコミ 懇談会	毎日新聞社 KBC 電波新聞 佐賀新聞	マスコミ 4名 会員 5名
8	3月23日(金) アクロス 会議室	公開講座	「ヒーブカフェ 震災後、わたしたちの消費行動は変わったか?」 田坂 逸朗氏 ファシリテーター/マーケティングプロデューサー	講演会 13名

(4) 今後の課題

- ①九州支部は、内容の充実を図るため、7回の月例研究会、マスコミ懇談会の開催と、積極的に行った。が、活動の満足度・充実度は高かった半面、少人数の会員による準備や集客は負担が大きかった面もあった。今後はいかにして運営の負担軽減を図り、また、新入会員へのガイダンスミーティングを開き、ヒーブ九州支部の活動への積極的な参加を促すことが求められる。
- ②九州支部の会員減少に対する対策として、今後は東京本部、代表理事とも連携しつつ、現会員が会員継続できるようバックアップ体制を構築するとともに、地元企業に対するヒーブの活動PRをより一層強化することが必要である。さらに、九州支部OGとの交流会を持ち、

協力や入会企業情報等の提供などの支援をお願いする。

II. 組織

一般社団法人日本ヒーブ協議会 2011 年度の活動は、代表理事以下、理事会およびその下に組織された各グループおよび各支部によって行った。

なお、今期の理事会は「理事会準備会」を 1 回、「理事会」を 13 回実施した（臨時 1 回含む）。

【役員】

代表理事	高野 逸子	アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
副代表理事	細島 芳	第一生命保険（株）
副代表理事	野田 郁子	昭和産業（株）
副代表理事	杉本 美穂	ライオン（株）
理事	鈴木 千秋	（公財）生命保険文化センター
理事	上地 美香	（株）アシックス
理事	後藤 寛子	森永乳業（株）
理事	民長 奈緒子	三菱自動車工業（株）
理事	古舘 知寿子	味の素（株）
理事	三村 伸子	（株）資生堂
理事	藤原 正江	（株）アンデルセンサービス
理事	宮崎 和恵	おおいたインフォメーションハウス（株）
理事	花田 泉	クリエイティブオフィスビーンズ
理事	向笠 恭子	九州電力（株）
監事	林 栄吏子	昭和産業（株）
監事	志保沢 久子	味の素ゼネラルフーズ（株）

【運営グループ】

企画グループ	リーダー	高野 逸子	アフラック （アメリカンファミリー生命保険会社）
研究会推進グループ	リーダー	細島 芳	第一生命保険株
組織の活性化を図るグループ	リーダー	野田 郁子	昭和産業（株）
調査グループ	リーダー	鈴木 千秋	（公財）生命保険文化センター
広報グループ	リーダー	杉本 美穂	ライオン（株）
関西支部	支部長	藤原 正江	（株）アンデルセンサービス
九州支部	支部長	宮崎 和恵	おおいたインフォメーションハウス（株）

【会員数】 (2012年3月31日現在)

正会員	124名 (98社)
うち関西支部	22名 (14社)
うち九州支部	11名 (10社)
特別会員	20名
個人会員	13名
賛助会員	26社 (29名)
休会	7名

【事務局】

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2丁目22番2号 金杉ビル401号

TEL 03-3320-3155 FAX 03-3320-3166

URL <http://www.heib.gr.jp/> E-mail heib-jimukyoku@heib.gr.jp

窪田 久美子 辻村 智恵子

2011年度 収支決算報告書

自 2011年4月1日
至 2012年3月31日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
前 期 繰 越 金	1,897,011	1,897,011	0
会 費	7,134,000	7,342,500	△ 208,500
正 会 員	6,900,000	7,140,000	△ 240,000
個 人 会 員	234,000	202,500	31,500
入 会 金	75,000	195,000	△ 120,000
正 会 員	60,000	180,000	△ 120,000
個 人 会 員	15,000	15,000	0
賛 助 会 費	2,000,000	1,900,000	100,000
雑 収 入	1,278,500	1,724,665	△ 446,165
預 貯 金 利 息	1,000	3,087	△ 2,087
特 別 例 会 費	1,226,000	1,241,200	△ 15,200
特別会員寄付金	50,000	190,000	△ 140,000
そ の 他	1,500	290,378	△ 288,878
合 計	12,384,511	13,059,176	△ 674,665

※ 特別例会費内訳

東京本部	857,500
関西支部	263,200
九州支部	120,500

<支出の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
活動費（東京・関西・九州合計）	6,037,300	4,764,905	1,272,395
企画活動	776,000	776,132	△ 132
研究会推進活動	3,466,000	2,746,360	719,640
組織の活性化を図る活動	496,500	191,978	304,522
広報活動	1,059,800	1,029,830	29,970
調査活動	239,000	20,605	218,395
※地域別内訳			
東京	4,125,300	3,352,835	772,465
関西支部	1,361,000	849,403	511,597
九州支部	551,000	562,667	△ 11,667
運 営 費	5,686,000	5,338,809	347,191
地代家賃	990,000	987,744	2,256
人件費	2,214,000	2,024,091	189,909
コンサルタント費	470,000	420,000	50,000
通信費	260,000	273,408	△ 13,408
交通費	686,000	475,770	210,230
会議費	10,000	8,839	1,161
消耗品費	65,000	133,219	△ 68,219
保守料	139,000	145,655	△ 6,655
支払手数料	25,000	27,528	△ 2,528
水道光熱費	70,000	68,027	1,973
運賃	80,000	85,840	△ 5,840
賃借料	477,000	476,280	720
租税公課	80,000	81,100	△ 1,100
雑費	10,000	0	10,000
交際費	10,000	35,564	△ 25,564
OA機器引当金	100,000	95,744	4,256
支 出 合 計	11,723,300	10,103,714	1,619,586
周年行事準備金		500,000	△ 500,000
剰 余 金	661,211	2,455,462	△ 1,794,251
合 計	12,384,511	13,059,176	△ 674,665

貸借対照表

2012年 3月 31日現在

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
現金	20,987	預り金	34,350
普通預金	11,719,275	未払費用	282,819
有価証券	1,149,315	前受金	1,594,000
前払費用	81,000	35周年行事準備金	1,000,000
電話加入権	72,800	基本金	7,752,746
保証金	76,000	前期繰越正味財産額	1,897,011
		正味財産増加額	558,451
合計	13,119,377	合計	13,119,377

正味財産増減計算書

(2011年4月1日～2012年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額
I 増加の部	
1. 資産増加額	
当期収支差額	558,451
2. 負債減少額	-
増加額合計	558,451
II 減少の部	
1. 資産減少額	-
2. 負債増加額	-
減少額合計	-
当期正味財産増加額	558,451
前期繰越正味財産額	1,897,011
期末正味財産合計額	2,455,462

財産目録

2012年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現 金 手許有高	20,987	未払費用 3月給与 窪田久美子	103,740
普通預金 三菱東京UFJ銀行原宿支店	11,434,219	" " 辻村智恵子	94,825
" " (関西支部)	80,517	" パソコン等購入代	84,254
" ゆうちょ銀行 (九州支部)	13,239	前受金 翌期会費	1,594,000
" ゆうちょ銀行 (振替口座)	191,300	預り金 源泉所得税	34,350
有価証券 野村証券MMF	1,149,315	35周年行事準備金	1,000,000
前払費用 事務所家賃金杉きよ子	81,000	流動負債合計	2,911,169
流動資産合計	12,970,577		
2. 固定資産			
保証金 事務所: 金杉きよ子	76,000		
電話加入権	72,800		
固定資産合計	148,800		
資 産 合 計	13,119,377	負 債 合 計	2,911,169

監査報告書

定款第32条より2011年度の会務並びに会計につき監査を行った結果、
下記のとおり報告いたします。

記

1. 会務は滞りなく運営され、予算の執行状況は適正である。
2. 現金、預金、有価証券については適正、確実に管理保管されている。
3. 帳簿および証拠書類は正確に記入、保存されている。

2012年4月5日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

監事 林 栄吏子 

監事 志保沢 久子 